



大阪錦重日々新聞紙
 第六号

浅草寺の二時の鐘人々多し
 うろくを胸をかき物なりて苦
 ぢん地巻して思も悪うつと
 古の菓子屋の近頃家の勝手
 向がまろくあつて向いの伊勢屋と
 女一人金も貸さずあつてあやも文を
 せ入まろく返り手建かたの力あつて家が流と
 込し古に渡世も水の泡伊勢やの共家をもとを
 おく賑しく日影の蝶や細くと主の病の
 床を思ふ仇ある金くらをとりせ
 を恨くともいふ云々重り黄
 泉へいふ伊勢やの主は氣
 と思ひながら根こるる病氣を
 設け淋しと床おひた来り



神経病とて蝶屋と
 思ふ禍ひ我が身をこれと
 責むつと開けぬ
 愚者とやう美由
 讀言八百八号

錦重日々新聞紙
 第六号

錦重日々新聞紙
 第六号